

[4] 串間市小体連（学校数9校 児童数 874人）

I 年間事業

期 日	事業名	主な内容	会 場
5月10日(水)	第1回南那珂地区小中学校教科等研究会		南郷ハートフルセンター
5月 1日(月)	第1回理事会	前年度事業、会計報告・役員選出・事業計画・予算案の審議	福島小学校
6月 6日(火)	第2回理事会	研究推進・体力テストの実施について・水泳記録会に変わる取組について	福島小学校
7月13日(木)	第3回理事会	研究推進・運動会審議・水泳記録集計	福島小学校
8月31日(木)	第4回理事会	陸上記録会について・研究推進	福島小学校
10月 6日(金)	第5回理事会	授業研究会・打合せ陸上記録会	大東小学校
11月13日(月)	第6回理事会	陸上記録会選手名簿確認・前日準備	福島小学校・市総合運動公園
11月14日(火)	第58回串間市小学校陸上記録会		市総合運動公園
12月12日(火)	第7回理事会	研究のまとめ	福島小学校
2月22日(木)	第8回理事会	事業反省・研究のまとめ・次年度事業計画	福島小学校

II 事業部のあゆみ

1 陸上記録会

- (1) 大会名 令和5年度 串間市小学校陸上記録会
- (2) 実施日 令和5年11月14日(火)
- (3) 会場 串間市総合運動公園内陸上競技場
- (4) 出場者 串間市内各小学校6年生児童 ※小規模校は5年生も参加
- (5) 実施種目
 - トラック競技
 - ・100m ・800m(女子) ・1000m(男子) ・50mハードル ・400mリレー
 - フィールド競技
 - ・走り高跳び ・走り幅跳び ・ソフトボール投げ
- (6) 競技方法
 - タイムレースとする。
 - 出場は、リレーを除き、トラック・フィールドを合わせた全ての競技の中で、1人1種目とする。
 - その他細部については、串間市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程 開会式 8:45 競技開始 9:00
競技終了 11:45 閉会式 11:50
- (8) 表彰
 - 上位6名までを入賞とし表彰し、参加児童全てに記録賞を渡す。
- (9) 反省
 - 串間市内の他行事との重なりを考慮して開催時期を11月に変更した。その結果、熱中症の心配もなく安全面に考慮して実施することができた。
 - 競技時間短縮を目指し、100m走を全員参加ではなく選抜にして実施した。
 - 記録をスムーズに行うことができるように、本部記録担当は自校からタブレット、PCを持参する。会長は、その旨を担当校へ連絡する。
 - 一人一種目の参加は少ないのではないかと。→次年度は100m走に全員参加とし、一人二種目に参加するようにしてみてもどうか。
 - 走り幅跳びなど競技の細かな部分(助走距離や高跳びのバーの弛み、計測方法)を陸協から講習を受けて、各学校の役員へ伝達できるようにしたい。
 - 児童の減少、役員不足などの観点から今後記録会をどのように実施していくのかの検討が必要である。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動にすすんで関わる児童の育成
～主体的・対話的で深い学びのある授業の工夫・改善を通して～

2 主題設定の理由

現行の学習指導要領において、体育科では、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育むこと」が目標として示されている。そして、体育科で育成を目指す資質・能力とは「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つを指している。この3つ資質を関連付けながら指導を進めていくために、自己の課題に気付いたり、課題の解決に向けて粘り強く取り組んだりする活動を意図的に配置することで、児童の主体的な学びを生み出すための授業改善が求められている。

そのために、串間市小体連では学習過程の中に自らの学習活動を振り返ったり、仲間と思考を深めたりする活動を位置付けることで主体的・対話的で深い学びのある授業を工夫してきた。

令和3年度より、ネット型ゲームにおける「主体的・対話的で深い学びのある授業」はどうかを授業の工夫・改善の視点とした。

今年度は、学習課題を工夫し、「運動のポイント」を児童自らが意識できるような手立ての工夫を研究することとした。

3 研究の目標

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童を育成する指導の在り方を究明する。

4 研究の仮説

体育科授業において、主体的・対話的で深い学びの視点から、自分やチームの課題と向き合い、運動のポイントを意識できるような工夫を行えば、運動の楽しさを実感し進んで関わるようになるであろう。

5 研究内容

(1) 主体的・対話的で深い学びのある体育科授業の実践

ア 「運動のポイント」について

串間市小体連では、一単位時間で児童に理解させたい技能につながる動きを「運動のポイント」として設定し、授業で児童が課題解決に取り組んだ結果、自ら「運動のポイント」に気づくことができるような指導の工夫について研究を進めてきた。



〔運動のポイント〕

- ボールを受ける側は、ボールの落下点に素早く移動し、ボールが低い場合は低い姿勢を取る。
- オーバーハンひざとひじを柔らかく使って、ボールを押し出すようにドパスでは、ボールを操作する。

【図1 運動のポイントの例：ソフトバレーボールのレシーブの動きの場合】

イ 児童に「運動のポイント」を意識させるための授業実践

10月6日に研究仮説の検証のため、授業実践を行った。

授業実践：都井小学校（第5・6学年） 種目：ソフトバレーボール

授業を通して「運動のポイント」に児童自らが気付けるような手だてとして、思考スキルの考え方を取り入れることで、児童が話し合いや活動を通して、「運動のポイント」を実感できるよう授業を工夫して行った。

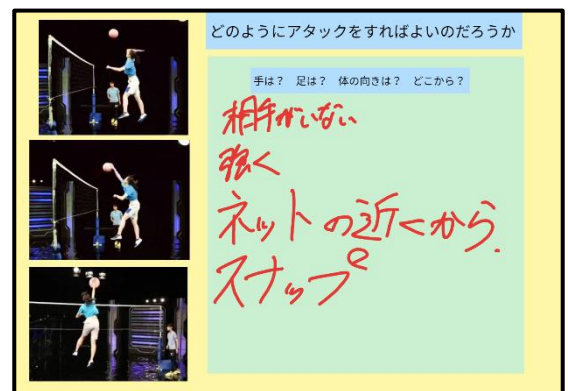
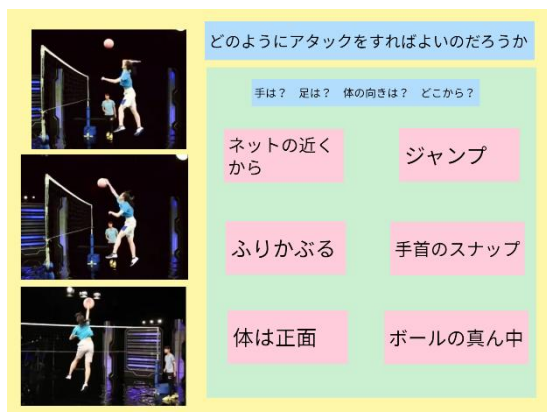
- まず、課題の設定において児童の実態に沿った課題が設定できるよう前回の授業での児童の感想から児童の課題を抽出し、「アタックができるようにすること」を本時の課題として設定した。

10月3日(火)	今日めあてが達成できたか	できた	少しできた	あまりできなかった	できなかった
	進んでゲームや話し合いに取り組むことができたか	できた	少しできた	あまりできなかった	できなかった
ふりかえり(良かったこと・課題・チームへのアドバイス)					
はじめソフトバレーボールをして、アタックがむずかしい、たてず。パスはできていたのでも					

【資料2 前時の児童の振り返り】

- 児童の思考を促すため、前回の自分たちの動きと動画教材を見比べることで、どこが違うのかを話し合いアタックに必要な「運動のポイント」としてまとめた。

この時、比べる視点を設定することで児童が「運動のポイント」を意識しやすくなるよう工夫を取り入れた。



【資料3 掲示資料と児童のワークシート】

- 授業では、児童が見つけた「運動のポイント」をもとに、アタックの際に、手首のスナップを意識して声掛けをする様子が見られた。また、練習をしながら、児童同士が話し合う中で、利き手側にトスが来ると打ちやすくなるという新たな発見にもつながり、児童自身が「運動のポイント」に気づき、自ら実践しようとする姿が多く見られた。

さらに、アタックの練習を通して、トスを上げるポイントを意識しだすことで次の時間への意識付けにもつながった。




【資料4 実際の授業場面】

(2) 運動アイデア集の作成

運動のポイントを児童に実感させるうえで、児童数の少ない小規模の学校が多く、ゲームや練習を行って知識や技能の定着を図る場の設定や指導に自信がもてないという課題を多くの教員が抱えていることが分かった。そのために、まず学習指導要領に示される各学年で身に付けるべき資質や能力を明らかにした。これを基に各学年の発達段階の応じた教具の工夫や場の設定など少人数でも技能の定着を図れるような運動アイデア集を串間市小体連で作成した。

この運動アイデア集については、「運動のねらい」、「やり方」、「ポイント」というシンプルなものとした。これは、教師だけが活用するものではなく、児童が自分たちの課題に応じて練習を選択する、という活用もねらいとしている。

運動名 ボールキャッチゲーム	
人数・・・1人～ 準備するもの・・・ボール・バケツ	
☆ねらい☆ 技能 ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。	
☆やり方☆ ・一人がボールを持ち、床に力強くバウンドさせる。 ・もう一人はバウンドしたボールの落ちてくる地点に入り、バケツでキャッチする。	
☆気をつけること・運動のポイント☆ ○ 児童の実態に合わせて、はねにくいボールにしたり、硬さを変えたりする。 ○ バケツは体の前で受けさせるようにする。一度入ったボールがはねて飛び出さないように、膝を使って衝撃を吸収させるとよい。	



【資料5 アイデア集の例と実際の活用の様子】

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- 児童自身の課題をもとに単元の目標や一単位時間の目当てを設定したことで、児童自身が課題意識をもつようになり、課題の解決に向けて主体的に取り組む活動へとつなげることができた。
- ワークシートに思考ツールを取り入れたことで、児童が運動の特性を捉え、視点をもって自分たちの動きを考えるなど、対話的・共同的で深い学びにつなげることができた。

(2) 課題

- 単元の目標を達成するために児童の実態に応じた、練習方法やルールを設定していく場合、確実な児童の実態把握とそれに応じた適切な練習方法の選択ができる教師の指導技能を高めていく必要がある。
- 今年度、ネット型ゲームの運動アイデア集を作成した。これを各校で実際の授業に取り入れながら工夫と改善を進め、より有用性の高いものへとブラッシュアップしていく必要がある。